



《発行所》
曹洞宗中国管区教化センター
〒722 尾道市東土堂町17-29
TEL0848-25-2855
《印刷所》
印刷ショップ・イトウ
TEL0849-31-6495

目次	
● 宗務所内ニュース	4
● ほとけさまに出会う	6
● 親子ゼンインサマーセミナー	8
● 研修会に参加して	9
● 人権学習	10
● 集中伝導	11
● 禅をさく会	12
	13
	14

一九八七年（昭和六十二年）より展開されてきました「合掌礼拝運動」は、一九九二年（平成四年）より、総合テーマを「仏に出会う」とし、一仏両祖との教えを徹底せしめるために、文書、映画（ビデオ）等を製作し、教化活動を展

の目標に掲げ、一仏両祖の教えの具体的な展開を図るために、平成六年度の布教方針が次の通り示されました。

開してまいりました。

平成六年度 布教方針
正法の宣揚と曹洞禅の挙揚を願ひ、宗

平成六年度布教方針「まごころに生ずる」

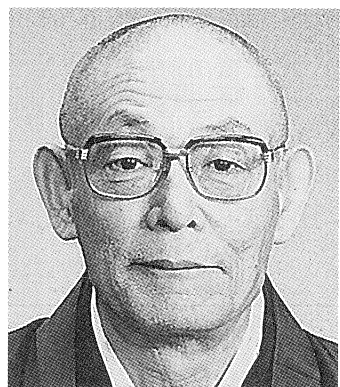
開してまいりました。

本年度は更に三年計画のまとめの年として、一仏両祖の教えを布衍してまいります。特に管長告諭に基づき、曹洞宗の宗旨であります「只管打坐」「即心是仏」を承当する―ということを現代的に表現した「まごころに生きる」という言葉を、仏教徒としての自覚と誓い合い

教情操を喚起し、宗門の教義に基づく信仰実践として打ち出された合掌礼拝運動の総合テーマ、『仏に出会う』のまとめの年にあたり、一仏両祖の教えの具体的な展開を図るために、本年度は次のごとく、布教方針を定める。

一、仏法僧の三宝に帰依し、一仏両祖を奉祀して、宗門の教えを学び、仏教徒

- 一、としての正しい信仰心を育む。
 - 二、坐に親しみ、自己を調べ、「まごころに生きる」仏道修行の実践を勧める。
 - 三、第三次総授戒運動の第四年目にあたり、授戒会の開催を奨励し、受戒を勧め、戒の本義を伝える。
 - 四、全ての人間の尊厳と平和への自覚を高め、一人びとりの人権を尊重し、差別のない社会と世界平和の実現を希求する。
 - 五、ものいのちを大切に、「少欲知足」の教えを実践し、自然環境との調和を図り、他を思い、共に生きる自覚を促す。
- 開設二十周年を迎える教化センターでも、布教方針に沿って諸事業を進めてまいる所存です。何卒管区内御寺院様の絶大なる御協力をお願いいたします。



統監退任にあたりて

前統監
長岡 徹宗

昭和五十四年末、突然本庁より電話で、中国管区教化センター統監に就任してほしいとのこと。これまで「教化センター」の名さえ聞いたことのなかった、宗門行政に暗い私は、とまどいながら管長猥下の任命辞令を頂きました。

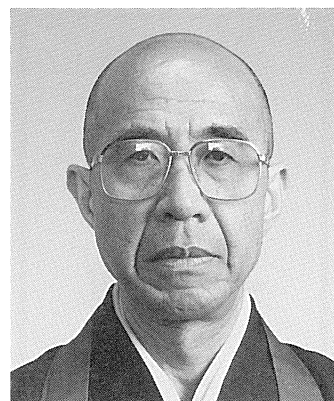
爾来暗中摸索と失敗を重ねながらの十有五年、その間蒙りました皆様の御道愛に、なんらお酬いすることもなく、このたびの任期満了を期にセンター統監職を退任させていただくことになりました。

省みれば、就任当時の教化センターは、宗制上の確たる位置づけもなく、一般的には、管区布教面に於いて本部布教と地方布教の対立激しく、その狭間に浮沈するような機でした。

そうした中で不徳非才な私に大過なく、どうやら努めさせていただきましたことは、一に、管内歴代管区長、宗務所長、宗務所役職員諸老師を初め、管内御寺院諸大徳の御法愛と温かい御激励の賜と、身にしみて有り難く茲に深謝御厚礼申し上げます。

今後は、その報恩行の一端として、自由な立場での布教行脚の誠を捧げたいと念願いたしております。今後共、よろしく御教導のほど願ひ上げます。

統監職退任に当たり管内一千ヶ寺尊老師に、紙上をかりて失礼ながら御厚礼申し上げますとともに、益々聖胎御長養のほど伏して祈念申し上げます。



統監就任のご挨拶

統 監
宮田 玄洞

この度、永年統監の役割を遺憾なく発揮された、長岡老師の後席を汚すことになりました。もとより浅学非才任に値しない凡僧、果してその任を全うし得るか、ただ責務の重大さを痛感しております。

明治以来仏教が育てた、報恩・滅私の心により、懸命に働く民衆の力によって、近代日本がつくられました。それが世界から敵視される戦争へと最悪の方向に突っ走り、悲惨な終戦から五十年という、新たな転機を迎えております。この節目にあたり、各宗教団体は、平和のためのフォーラムを計画、その準備がすすめられていくようであります。

何等戦争行為のない、本来平和に生きるべき民衆が、広島、長崎の原爆によって二十万人、沖縄では百五十万人に及ぶ、大量犠牲者を出して、戦争は終結しました。これは日本の南京大虐殺にはじまる、殺戮行為の繰り返しの結末でもあったわけであります。

その後の大衆のエネルギーが、現今の復興をもたらした、科学技術の進歩は、実にめざましい躍進を遂げ、まさに史上曾てない物質的繁栄を謳歌しています。しかし反面自然破壊はすすみ、人心は荒み、目を蓋いたくなるような、社会現象が生じております。

作家マルローが「もし物質や便利だけを追求するならば、後の百年は存在しないだろう」と言っており、アメリカ国籍で

はありますが、日系人として最初の宇宙飛行士であった、エリスン鬼塚の「地球は青くて美しいみんな守らねば、地球には国境はどこにも見当らなかつた。」という名セリフも味わい深いものがあります。

今宗門は、平和、人権、環境を教化の実践目標としており、これは現代社会の、あらゆる層で努力されていることでもあります。

同胞一和していくため、人権尊重が叫ばれ、平和のための集いが重ねられても、手を合せて一つになる、心の世界を見出し、出していかなければ、真実の平和は望まれる術もないと思う時、宗侶の使命は、実に大なるものがあることを痛感いたします。

その中で、教化センターの性格機能を如何に果すべきか、対機の上になる大衆の要求と、必要性を摸索しながら、最善の努力を傾注する覚悟であります。

管内諸老師、ご道愛をもって宗門教化のため、ご協力下さいますよう懇願申し上げます。

山口県宗務所

山口県宗務所は所長以下六名のスタッフで、宗務所業務を実施しています。平成五年度は次のような行事を実施いたしました。

- 檀信徒研修会 一泊二日
- 現職研修会 二泊三日
- 徒弟研修会 一泊二日
- 寺院研修会 一泊二日
- 婦人会総会研修会
- 管内布教師・青少年教化員会議
- 布教委員会
- 大本山永平寺研修参拝 二泊三日
- 禅を聞く会
- 人権推進委員会研修会 年三回
- 梅花奉詠大会（周防、長門）二日
- 梅花検定会
- 寺族地方集会研修会
- 県婦人会役員会
- 特派布教
- 梅花特派布教

今まで徒弟研修会は、センター行事の親子ゼンインサマーセミナー参加協力に変えていましたが、今年度から、少数の参加でも良いからという考えで、青少年教化委員及び、曹青の協力で徒弟研修会を開きました。朝のおつとめ、坐禅、お経の読み方、鳴物の作法等、徒弟には大変有意義な研修でした。現在子供の減少にある中、参加人員が十六名あり一回目としては、良いのではないかと自負しています。

ます。六年度は第二回目を長門地区で計画しています。

岡山県宗務所

第四教区護持会の活動状況

教区護持会の主な活動並に行事は、春の総会・秋の特別研修会・団参旅行・坐禅会・写経会・霊場巡拝、それに年二回の会報発行などである。秋の特別研修会とは、特派巡回布教の際、当番寺院に各寺院護持会の役員が集り、両祖忌を厳修し、特派布教師の法話を聴聞し、併せて同和研修を行う会である。

団参旅行は概ね本山参拝であるが、本年度は四国の瑞応寺に参拝し、一光老師、通元老師のご法話を拝聴し、瑞応寺の精進料理を頂戴した。

坐禅会は、雲泉寺の禅堂を利用していただく、雲泉寺は宇治の山頂にあり、晴天の日は四国の石槌連峰がみはらされるまことに眺望絶妙の聖域で、坐禅には最適の環境である。

写経会は、吹屋ふるさと村の延命寺を会場にお願いし、写経が終ると、延命寺の精進料理をいただき、その後で日常生活と佛法について話し合い意義深い一時を過ごす。霊場巡拝は、備中西国三十三観音霊場巡拝で、本年度五年目を迎えた。初年度の参加者は三十数名であったが、年を追って増加し、本年度は遂に一三〇

所としては初めての試みである。寺院子弟交流の場となることを第一の念願とし、経典、坐禅指導、レクリエーション、尾道市内の古寺めぐりなどの内容で、三月二十九〜三十日、宗務所で開くことになっている。

また、安居歴がなく、長髪、休日などの事情で、現職研修を受講しにくい宗侶も居られるのではないかと思われるのであるが、兼職者の為の現職研修を実施されている宗務所の御指導をいただきたいと思っている。

三、昭和四十年制定の本県宗務所条例は、別の宗務所規則などともに再検討の要ありという事で何度か話し合い、やっとなる新年度所会に改正案を提出することになった。

管内宗務所より条例など御教示をいただき有難うございました。

島根第一宗務所

行事紹介「布教講習会」

島根県布教講習会は、二月末に浜田市にて、第七回目が実施され、約五十名の方が集いました。

敗戦五十回忌の年との観点から、「平和・戦争」をテーマとして、講演と意見発表があり質疑応答が行われ、戦争について理解を深めた会となりました。出席者の多くが、戦後生まれとなり戦争体験者も極く少いことから、具体性に欠ける

名の多きに達した。会報の発行は、益月と正月の年二回である。

また本教区では毎年眼蔵会が行われている。且つ昭和六十一年の夏吹屋延命寺に於て、宮崎奕保殿下（当時副貫首）をお迎えして眼蔵会が行われたが、その後平成三年四月、雲泉寺の禅堂が完成し、檀崎一光老師を迎え開単式を兼ねての眼蔵会が修行され、以来毎年行われている。

広島県宗務所

広島県宗務所、平成五年度の新しい事業として、

- 一、宗務所婦人会の再発足
- 二、徒弟研修会の実施
- 三、宗務所条例の再検討

一、婦人会については、十六年前から十ヶ寺の婦人会が届け出られてはいるが、昨年からの呼びかけで新たに結成をいただいた寺院婦人会などを結集して、本年八月三十一日にやっと宗務所婦人会結成の運びとなった。寺檀の意思疎通を通じての相互の信頼関係の樹立こそ今日の寺院の急務であると思ひ、その一助にもなればと、寺族会との関係もはつきりしてすすめていきたいと思っている。

二、徒弟研修については、本県青年会活動として実施された事もあるが、宗務

かとの心配もありましたが、発表者の中には軍隊経験者を尋ね、その体験談や叫びを聞き、思考され、戦争が如何に悲惨で破壊、殺人そのものであるかを訴え、二度と戦争をしてはならないと強調されていました。

又意見交換も、今自分の立場で、遺族会、法事等の場で、どうとらえ永久平和、戦争について語れば良いか等、活発にありました。講師の小島清文氏は、海軍軍人として、大和に乗り組み、レイテ沖海戦、ルソン島密林内を転々とし、投降、収容所生活、終戦運動従事等数々の体験から、「不戦兵士の会」を創立、戦争体験を語り世界平和実現に活動しておられる方です。

講演の主旨は、自分は戦争についてあまり疑問も持たず、命令に従って従軍したこと強く反省をしている。戦争も平和も、人間の心の中から起こる。中でも戦争は、特定の人の自我、欲から起こり遂行される。教育は、人間が如何に生きるかを教えるものだから、一人一人の生命の尊厳を自分の意志で行動することの出来る教育をしなければならぬ。そして戦争は「必ずさけられるものだ。」と小さい時から教えよう。

島根第二宗務所

第十回親子ゼン・イン・セミナーを迎えるにあたって

本年、島根県第二宗務所は、管区集會、ミニ禅をきく会、親子ゼン・イン・セミナー等の管区行事を引き受けることとなっております。中でも、教化センターの一大行事でもある親子ゼン・イン・セミナーは、毎年、各県より多数の参加者を見、当番県の特徴ある内容で行われてきました。今年も、第十回目を数える記念の年に当たり、教化センターの今年は過去の参加者全てに案内を出し、例年以上の規模、記念すべきセミナーにしたいとの意気込みを受けての開催であり、迎える当宗務所としては、大きな責任を感じつつ、目下、諸準備を進めているところであります。過去、隠岐島を会場として開催致したことがありましたが、今回は、松江の観光シンボルでもある宍道湖畔の松江温泉を主会場に、近くにある海洋センターの協力を得て、新たな企画、内容、また、日本一の宍道湖の夕景を眺めて戴く様な水の都松江らしい特色を出したいと考えており、十回という節目に当たる年に松江での有意義な、数多くの思い出を残す、更には、手を合わせ、やさしい心で毎日を、という、セミナーの主旨に添った心暖まるセミナーを検討中であります。

多くの子供達の貴重な体験の場となる、このセミナーが今回を機に更に発展して行くことを願ひ、多数の参加をお待ちしたいと考えております。 合掌

わたしは、禪においては、この世で出会う人すべてがほとけさまだと信じていることだと思っています。もちろん、この世において、愛する人、怨み憎む人はいます。それはそれでいいのですが、いかなる人もほとけさまだと信じて、ほとけさまとして愛し、ほとけさまとして怨み憎めばいいと思います。

具体的にいえば、礼拝行です。合掌することです。まず相手を礼拝し、合掌し、そして愛し憎むのです。それが禪ではな



ひろ・さちや(本名 増原良彦)

1936年大阪に生まれる。
1960年東京大学文学部印度哲学科卒業、元気象大学教授、現在宗教評論家、著書「般若心経の読み方」「釈尊物語」「仏教の常識」「仏教に学ぶ八十八の智慧」「禅」「入門数異抄の読み方」「死後の世界の観光案内」等多数
●中国管区教化センター「禅を聞く会」の専任講師●親子ゼンインサマーセミナーメイン講師●NHK衛星第2放送において「般若心経の心」を解説されています。

たちが、そういう気持ちになったとき、わたしたちはお浄土が信じられるのです。わたしはそう考えています。

ところで――

わたしの生家は浄土宗なもので、いまお浄土の考えを述べさせていただきます。たが、禪の教えはこれとは少し違います。禪は死後の世界を考えないのです。死後の世界があるか、ないか、そのようなことを考えないですむ強い精神力を養おうとするのが、禪の教えです。

事実、釈迦世尊は、死後の世界があるか、ないか、といった質問を受けたとき、いっさい返答されませんでした。それを、――捨置記――

とありますが、このお釈迦さまの態度を禪は継承しています。

では、禪においてはどうなるのでしょうか？

いえ、そうではありません。それはおかしいのです。なぜなら、お浄土にあって憎み合った人と再会し、また再び対立し、憎み合いながら生きるのであれば、そこはお浄土ではありませんよね。いっさいの対立関係がなくなった世界がお浄土なんです。

したがって、キリスト教はいざ知らず、仏教ではこう考えるべきでしょう。この世においては縁によって、お互いに怨み憎み合って生きたが、お浄土に往けばもはやそんな対立関係はなくなつて、みんなが仲良く暮らせるのだ、と。わたし

ほとけさまに 出会う

カール・バルト(一八八六―一九六八年)はスイスのプロテスタント神学者です。近代神学の傾向に反撥し、神の超越性を主張する「危機神学」を提唱しました。

ところで、このバルトはなかなかユニモアのある人物でした。あるとき、信者のご婦人から質問されます。

「先生、教えてください。わたしたちが天国に行けば、愛する人たちと再会するというのは本当ですか――？」

「確かです」と、バルトは力強く答えます。そして、そのあと、このようなことばを付け加えたのです。

「だが、他の人々とも再会しますよ」
「おわかりでしょうか。『他の人々』とは、愛する人々以外の人です。この世で愛した人と天国で再会するのですが、同時に、愛さない人、憎む人とも再会するのです。バルトはご婦人にそう教えたのです。

仏教においても、浄土經典の『阿弥陀経』に、

「俱会二処」――
といったことばがあります。これも、わたしたちはお浄土において、みんなが、再び俱に一つの処に出会う――といった意味です。

けれども、これを、わたしたちは愛する人たちだけと再会すると考えるのはまちがいです。わたしたちの嫌いな人、この世で憎み合って生きた人とも再会します。

いえ、そうではありません。それはおかしいのです。なぜなら、お浄土にあって憎み合った人と再会し、また再び対立し、憎み合いながら生きるのであれば、そこはお浄土ではありませんよね。いっさいの対立関係がなくなった世界がお浄土なんです。

したがって、キリスト教はいざ知らず、仏教ではこう考えるべきでしょう。この世においては縁によって、お互いに怨み憎み合って生きたが、お浄土に往けばもはやそんな対立関係はなくなつて、みんなが仲良く暮らせるのだ、と。わたし



「えっ！」私は、その言葉にとまどってしまいました。今までに、五回くらいサマーセミナーに参加して、今年初めて班長に選ばれたからです。前は、班長なんてただ前に並んでいるだけかと思っただし、ほとんど仕事なんかないと思っていただけ、いざやってみると、とても大変でした。それは、いつもみんなの事を考えて行動するからです。特に今年、出し物があり、もし、みんなが面白がってくれなかったらどうしようと思いがら、組体操をしました。男子の班にピラミッドを作られると思ったので、花の名前の形をやりました。一番苦労したのが、立ったままブリッジをする「ひまわり」でした。初めはみんな全然できなくて、やめようかと思っただけ、みんなで協力して頭を打ったり身体がフラフラになりながらも練習し、とうとうできるようになりしました。七人のグループだったから、交代でセリフを言う工夫をしました。私にとっても一つ大変だったことは、部屋のカギを開けたり閉めたりすることでした。部屋にもどる時も誰よりも早く帰らなければいけないし、会場へ行く時も、なかなか閉まらなくて一回おくれ

初めての班長

岩成 里美 (小六)

「班長、何をすればいいの！」

「えっ！」私は、その言葉にとまど

ってしまいました。今までに、五回くらい

サマーセミナーに参加して、今年初めて

班長に選ばれたからです。前は、班長な

んてただ前に並んでいるだけかと思っ

ただし、ほとんど仕事なんかないと思っ

ただけ、いざやってみると、とても大

変でした。それは、いつもみんなの事

を考えて行動するからです。特に今年、

出し物があり、もし、みんなが面白が

ってくれなかったらどうしようと思

いがら、組体操をしました。男子の班に

ピラミッドを作られると思ったので、

花の名前の形をやりました。一番苦労

したのが、立ったままブリッジをする

「ひまわり」

でした。初めはみんな全然できなくて、

やめようかと思っただけ、みんなで協

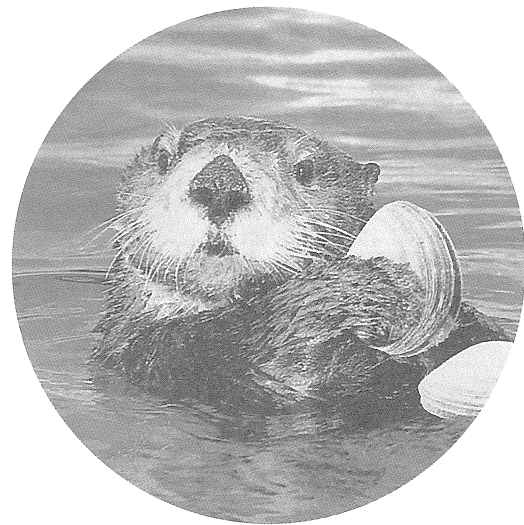
力して頭を打ったり身体がフラフラに

なりながらも練習し、とうとうできる

ようになりしました。七人のグループ

だったから、交代でセリフを言う工夫を

しました。私にとっても一つ大変だ



セミナーに参加して

青砥 直子 (中二)

めげせ、三年連続優勝！

というわけで、ついにやって来ました、

第九回親子ゼンインサマーセミナー！も

う今回で三回目の参加。とにかくセ

ミナーに、はまりまくって、ぬけられない

私…。

しかし！すさまじい勢いで、のぞんだセ

ミナーなのに。『セミナーの顔』とい

べきウォークラリーが、雨で中止であ

った。「ひえーっ、そりゃ、あんまりだあ！」

なんで雨がふるんよー。だれか何とかし

第九回 親子ゼンイン サマーセミナー INみやじま

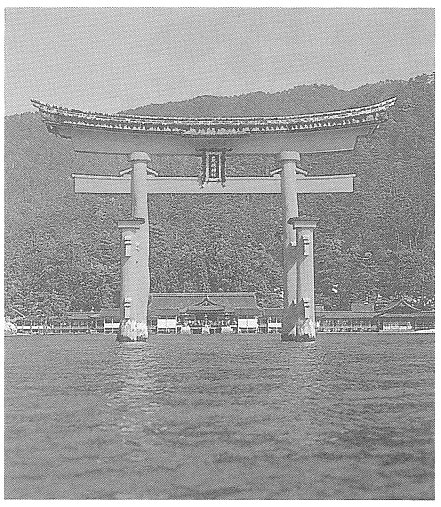


行ったことがあり、それも、班長の責任でした。でも、逆に大変いやなことばかりじゃなくて、良いことや楽しかったこともたくさんありました。班長として、良かったことは、班の人がいいことをしたら私もほめられることです。例えば、

てくれえー。(言うだけムダであったのだ。)でも、かわりの班別対抗は、おもしろかったんだから、まあ、いいか。うちの班は、おしかったで賞、うーん四位くらいか。うん。なかなかだと思っ。さて、セミナーで問題なのは、班員とうまくいくか？だ。でもうちの班は、初日からギャーギャーさわぎまくり。ま、それほど仲が良い。つてね。みんな「番長、番長(班長の変形語)」と親しんでくれたし。とっておきのシャレ&話で笑ってくれたし。…しかしこの番長、後が大変であった。いつのまにやら、姿をく

らます二人組あり。真夜中に番長の、わき腹をけつとばし、のほほんと寝ている物あり。窓からラムネ(ひとつぶ)をブン投げ、屋根の上に乗せ、キャツキャツとサルのごとくはしゃぐ者あり。(ひーすいませーん)なにかあるごとに、ばかでかい声です。どつと笑う者あり。そして、クーラーをつけっぱなしにしていて、次の日「昨日、寒かった。」と言われてしまった番長あり。でもまあそれゆえに、いろいろおもしろかったから、少々大変でもいいか。

ところで、来年は松江だそう。行くか、どうしようか考えていた時、「絶対参加しろよー！」との声。この鶴の一声で、よおし！絶対行くぞ。と思った。(我ながら単純…)ま。みんなや先生達にも会いたいしね。

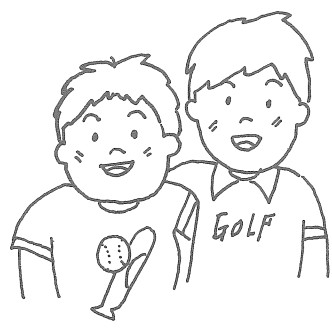


残念ながら私たちの班は、ほめられなかったけど、集合が早かった時やきちんとすわって待っているとほめられました。それに、一番前だから、よく見えたことや、班長の人(となりの人)と友達になれました。

一番楽しかったことは、水族館です。前にも行ったことがあるけど、ちがう人と行くともちがう楽しみがありました。特にラッコがエサを食べている場面が見れました。赤ちゃんのラッコは、イカなどをもらい大人のラッコは、貝をじょうずにわって食べていました。でも、貝がらはほうり投げるし、食べかすは落とすから、まるで、私たち誰かを見ていますうでした。ほかにシヨウは、たくさんありました。ピラニアのエサ食べや、ま

とにあるエサを水で取る魚を見ました。だから今年のサマーセミナーは、いつもとはちがう集いでした。

来年は、中学生なので参加できないかもしれないけど、みんなのことは、忘れません。

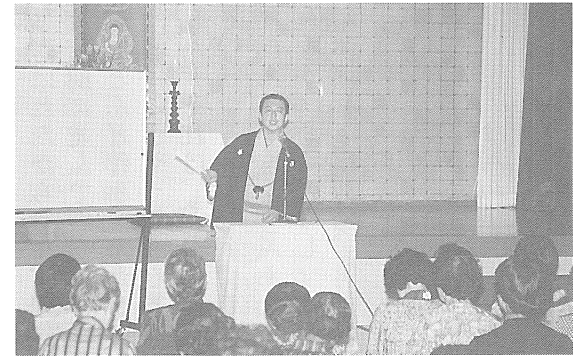


曹洞宗婦人会中国管区研修会に参加して

鳥取県曹洞宗婦人会長

森下 徳子

昨秋十月四・五日米子市皆生「山水楼生駒」に於きましての中国管区研修会に参加させていただき大変感激致しました。東海管区から遠来の鬼頭統監老師の講演は「いのちの鼓動をみつめて」という演題で、いのちの尊さ不可思議について懇切丁寧にお導きいただき日々の反省と、生き方の指針をいただきました。又、露



の新治師匠の人権学習は異口同音に「素晴らしかった」とも明るく楽しいお話でしたと大変な反響で、巾広い層の人達にもお聞きいただきたいと感じました。夕食後のアトラクションに爆笑し和気藹々のうちに楽しく終り心のふれあいを深めたことでした。昨年、婦人会が分離発足致しまして始めての集会故に暗中模索乍らも役員一同全力投球で運営にあたり、多少のハプニング不手際はございましたが何とか円成出来ました事をご多謝致して居ります。この感動を個々の寺院婦人会活動の糧として今後に行けたら有難い事と

そのように念じて止みません。どうも有難うございました。

人権学習

「勅賜禪師号」の問題について当研究会が検討するようにとの指示をいただきました。そこでこの種の問題について詳しい専門の研究者の方々に参加していただき、一九九三年九月以来研究会を重ねること六回で、一応の問題整理ができたので、答申書にまとめ、その資料とともに提出いたします。

ここで「勅賜禪師号」にかかわる点でとりあげようとしたのは、次にかかげた四つの問題です。

- 一、道元禪師・瑩山禪師の両祖は勅賜禪師号・紫衣について、受けるべきと考えておられたかどうか、
- 二、曹洞宗開宗以来現在に至る迄、勅賜禪師号について曹洞宗教団はどのようなにかかわってきたのか、歴史的な展開とその意義について、
- 三、現憲法にてらして、「勅賜号」は合憲なのかどうか、
- 四、部落差別と「天皇制」について、

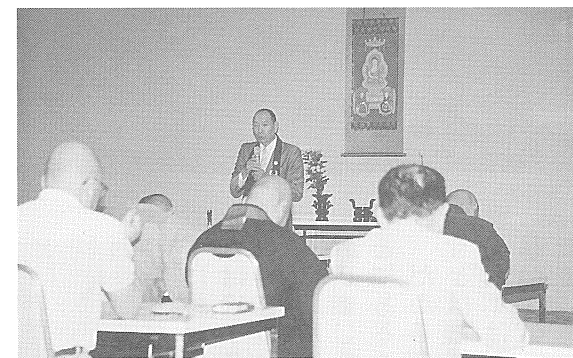
以上の四点について検討を加えることから研究会は始まりました。しかし四番目の問題、特に「天皇制」の歴史的段階における朝幕の位置づけについては、研究者相互における本格的な研究・分析が立遅れており、統一した学説が出されていない現状であり、また当研究会の力量

不足もあって、ここでは直接触れることはできませんでした。そこで、本答申書では一・三の問題に限定して答申する次第であります。詳しくは本文を参照していただきたいと思います。ここでは若干の問題整理を行ないたいと思います。

- 一は、道元禪師・瑩山禪師の著書の中で、天皇という表現の語句はありませんので、『正法眼蔵』『伝光録』の全文の中から、「勅」「皇帝」「祝聖」「国王」などの言葉を全て拾いあげることから作業をはじめ、これらの用語の使い方により、天皇と両祖のかかわり方を検討しました。その結果、両祖の思想の中には、天皇への接近はみとめられなかったこと、むしろそればかりか接近に否定的な扱いの語句が多く見られたことを指摘しました。ここでは特に両祖ともに勅賜禪師号を望んではいなかったことが明らかにされました。
- 二、については、曹洞宗教団の展開過程の中で、勅賜禪師号・紫衣・公文・坐公文・転衣瑞世などについて検討し分析を試みました。その結果一三五四年峨山禪師までの段階までは、むしろ勅賜禪師号は宗祖の教えにもとるとして断つていた。これに対して、史料で実証できるか

これに対して、史料で実証できるか

青少年教化指導者研修会



平成五年度は、六月二十二・二十三日の両日、広島県福山市の備後ハイッで開かれた。実技指導には安倍貞夫先生(福山リクリエーション協会副会長)、教化講義には和氣弘宗老師(現岡山県教化主事)、人権学習には藤井来二先生(福山女子短期大学講師)をお迎えして、実りある研修会であった。

私は初めて参加したが、それでもその後の子供会等で大変役にたっている。たとえば、今までの私であれば、子供相手となるとどうしてよいかわからなくて妙に緊張したのだが、研修会に参加したおかげで簡単なゲームもできるようになり、子供との遊びを楽しみ余裕ができた。

中国地方は過疎化が進み、多くの若者が都会へ出て行く今日、その人達が大人になり、故里を思った時、葬式法事の場合ではなく、遊びの場としてお寺を懐かしむことができ、私達も良寛さんに一歩近づくことができるのではないだろうか。現代は心の時代と言われるが、教化とはまさに心に訴えるものである。今芽が出なくても、いつか思い出が花を咲かせてくれるであろう。

ざりていえば一五〇〇年初頭頃から少しずつですが勅賜禪師号を受ける曹洞宗の僧侶たちが見られます。中世の禪宗寺院においては、勅賜禪師号は京都五山・鎌倉五山において、官寺的な寺院の辞令として將軍家の伝奏により、天皇家から慣例的に下賜されてきました。これに対して地方に展開した曹洞宗にとっては天皇の権威そのものが教団の展開に直結することは少なかつたようです。それゆえ五山派にくらべれば、それほどの数ではありません。

ところが江戸時代に入り、本末制度・檀家制度の確立によって寺院経営が安定しますと、將軍の公帖をえて紫衣・転衣(瑞世)を天皇から拝領することが、本山住職・末寺僧侶自身の昇格はもとより住持している本山・末寺の格式をあげる権威的なものとして評価されはじめます。そのことで飛躍的に曹洞宗教線を拡大させることにもつながるため、積極的に受け入れることになりました。幕末までに瑞世者は両本山合わせて十万人をこえるという驚くべき数字になっています。しかしそれに伴い売官制を横行させることにもなった点は残念なことです。念のため申し添えますと、江戸時代においては仏教諸宗派はこぞって紫衣・転衣(瑞世)を皇室から受けております。曹洞宗教団のみのことではありません。勅賜転衣は明治二年で廃止されます。

三ですが、明治以降において勅賜禪師号を受けているのは(両本山とも)、曹洞宗だけであることが今回はじめてわかりました。つまりこのことが本問題の社会的対応をむづかしくしています。そして更にそれが太平洋戦争後も中絶することなく現在まで続いているのも本宗門のみであります。そこでこの部分の討議には宗教法の専門家の参加をえて、かなり長い時間をかけて議論しました。その結果、現憲法に照してみると、現在のよう

な勅賜禪師号の授与方式は、かなり問題があり、「国家の宗教的活動の禁止」条項に抵触する恐れがあるとの結論をえまして。勿論、スポーツの表彰などに用いられる天皇盃・天皇賞の如き天皇の伝統的儀式としての意味合いの面もあるではないかとの議論もありましたが、「勅賜禪師号」をそれと同列に扱うには無理がある、との議論にもなりました。何故なら、「勅賜禪師号」の授与が、宗教教団一般ではなく曹洞宗教団のみに限って授与されているという現状では法的な説明ができない、という結論にもなりました。それゆえ今後とも曹洞宗が「勅賜禪師号」を天皇家から授与されることを継続する積極的理由はないと考えられます。詳しくは本文を参照していただきたいと思えます。もつとも勅賜ではない、本宗門内の最高位に尊称としての禪師号をつけるなら

ば特別問題はないわけで、これは宗門内で結論を出していただければいい問題とあります。曹洞宗の宗法上の問題でもあり

集中伝導 隠岐島

平成三年度に続き第二回目の集中伝導、前回と違うのは、法話された宮田玄洞老師から長岡統監に変わり、センター役員四名と林一成老師の五人、法話を長岡統監が、ゲーム・手品・腹話術を林老師が受持ち、司会・運営を元主監、そして映画を賛事にとそれぞれの役割を、会場の連絡は、島根県と広島県とで少し離れているので、当地の教化主事・岩田泰成老師にお願いし、隠岐の島の医光院様と連絡を取り合って、六月十四日(十六日迄の三日間で四会場を決めていただく。前回は、境港より海上六十キロの距離をフェリーで四時間もかかったのが今回は極力荷物を減らして、就航したばかりの超高速船「レインボー」に乗っていくように予定、時間は一時間二十分と、かなり短縮され道中の疲れも少なく、初日の夜の会場の時間までゆつくりできると思っ、隠岐汽船に電話をすると、一週間程、休航との事、一同ガッカリ。聞くところによると、少し前に航行中、クジラにぶつかり船体をこわし、現在修理中だそうで、最新鋭でも、もういりものです。それならば、前回と同じコース、尾道を

出発、四時間かけて境港に到着、食事をして十四時三十五分のフェリーに乗船、一同込み合った船内でも、伝道車の長旅でウトウト、十六時四十分西郷港到着。宿に着くや夕食もそこそこに、初日の会場、完全寺へ、小さな本堂は、すでに沢山の参集者で埋まり、休む間もなく、長岡統監は本堂でお話しを、「仏に出会う」と題し、釈尊の一代を主に話され、長旅の疲れもないかのように、持ち時間の時間を終了、終わって映画「永平寺に生きる」を放映、約二時間もあつというまに過ぎ、完全寺様と参集者の暖かい見送りを背に、会場を後に、初日終了。

ますので、あわせてご検討いただければと思います。

が多く人の出は余りよくない。しかし、定刻に元主監の司会で開始、護持会長挨拶後、長岡統監のお話し、昨日同様「仏に出会う」について、時間が経つにつれ、会場は空気がなくなり、満員の参集者は、熱心に聞き入っていました。終わって、林老師の手品、そして映画で二時間を終了。三日目、一昨年会場を受けて下さつ

た、隠岐共生学園第一保育所に、ここも林老師の独壇場、手品、人形劇、腹話術で一躍子ども達の人気者。一時間で終了、急いで荷物をかたづけ、皆に別れを告げ、西郷港へ。医光院様に見送られて、隠岐の島を後に一路、尾道へ。地元への歓迎、喜びの顔を思い出しながら、一行五人の第二回集中伝道は終了。

「禅をきく会」

第二回山口大会

山口県宗務所 副所長 南 正道

平成三年六月、中国管区第五回の「禅をきく会」が山口県で開催されたが、このたびは都市で定期的に開講されていた「禅をきく会」が、はじめて地方で開催されることになり、十一月十八日、新南陽「ふれあいセンター」を会場として、中国管区センター・山口県宗務所共催で開催することになった。

前夜、会場を準備する頃から大雨となつたが、当日の朝は素晴らしい秋晴れの好天候となり、県内各地より参禅会・護持会・梅花講・婦人会の会員が続々とつめかけ、定刻十時には前回の人数を上回る一、二〇名の参加者でさしもない大ホールも埋り補助椅子を出すということになり、禅に対する関心の深さに驚くとともに、関係者一同昨夜からの心労もふつ切れた思いであった。

青木教化主事の司会により、副所長の

開会のことばに続いて、両班各教区長老師、梅花奉詠のなか藤井宗務所長老師導師による本尊上供が厳肅のうちに終われ、所長老師、長岡教化センター統監老師のご挨拶があった。開会式が終り、センター長岡統監老師の「坐禅について」指導講話があり、いつでも、だれでも、どこでもできる坐禅の要諦をわかりやすく、ご懇切なご教示をいただき、坐禅に対して一層の意欲を高めることができた。

十一時より、山口県宗務所が平素よりあらゆる機会をとらえ、人権学習を推進してゆく計画の一環として、十六ミリ映画「花の咲く日」(五十分)を上映し、山口人権推進主事より人権学習へ取組についての指導があり、午前中の日程を終了した。

昼食時間を利用して山口県曹洞宗青年会のボランティア募金活動への協力依頼、

曹洞宗婦人会バザーなどが多彩の催しがあった。

午後一時、教化センター用元主監より、国際日本文化センター教授・山折雄雄先生の講師紹介によって、「神と佛」日本人の宗教観についての講演がはじまり、宗教と音楽の立場から、声明や詠歌さらには演歌などを例に引きながら、音楽と風土とは深いかわりがあり、人間の心を方向づけるものであり。日本人の心の本質をさぐり出すものは山岳信仰であると淡々と語られることばのなかに、宗教のあり方をわかりやすく説明された。講演終了後、椅子坐禅の実践指導が長岡統監老師よりあり、中央壇上に副所長と両側に参禅会男女八名が坐を組み、会場の参加者全員、真剣に禅の境地を椅子のうえで体験した。このたびの地方開催による「禅をきく会」で、これを機縁に参禅の輪が一層広がることを信じてたい。

「禅をきく会」

盛会裏に終了

鳥取県宗務所教化主事 鎌谷 良憲

去る平成五年九月三十日、木曜日、米子市末広町「市文化ホール」を会場として、中国管区教化センター並びに曹洞宗鳥取県宗務所共催の「禅をきく会」を開催した。参加者は、米子市内へ前日折込したポスターも効果があったのか、買物

新入所16ミリフィルム

題名	備考	
おこりじぞう	人形劇 27分 児童	原爆が投下された日の広島を舞台に、核兵器の恐ろしさと平和の尊さを訴える。
道元さま	アニメ 30分 児童・一般	入宗時代を中心に生涯を描き、禪師の示された坐禅とは何かを説く。
瑩山さま	アニメ 30分 児童・一般	生涯を描きながら、禪師の布教教化の足跡と観音信仰を説く。
こぎつねコンとこだぬきポン	アニメ 21分 児童	ユーモラスでちょっとハラハラする物語り。友達を持つことの楽しさを訴える。
ふるさとへの熱き思い	実写 55分 一般	世界人権宣言40周年記念ドキュメンタリー映画。部落差別を訴える。

新入所ビデオテープ

題名	備考	
仮面ぬいぐるみ劇団 旅するムンガ	実写 25分 児童	「人生において一番大事なものは何か」を考える物語り。
道元さま	アニメ 30分 児童・一般	入宗時代を中心に生涯を描き、禪師の説かれ坐禅とは何かを説く。
瑩山さま	アニメ 30分 児童・一般	生涯を描きながら、禪師の布教教化の足跡と観音信仰を説く。
仏典物語 ウパーリの出家	アニメ 29分 児童・一般	釈尊十大弟子の一人ウパーリをとうして、仏法には差別があってはならないことを説く。
禅の寺	実写 60分 一般	両大本山の修行や行事を紹介しながら、禅の修行風景を伝える。
大禅問答・法戦	実写 45分 一般	NHKで放送されたもの。修行の厳しさのみならず、青年僧の思いも伝える。
永平寺	実写 45分 一般	今もなお道元禪師の教えを受け継ぐ、永平寺の修行風景を伝える。
禅のこころ	実写 20分 一般	瑞応寺の修行風景を音と映像だけで紹介し、禅の心を伝える。
子供のための作法集 -基本編-	実写 30分 児童	立つ・座るはもちろん、お風呂の入り方など日常生活の常識的な作法を示す。
子供のための作法集 -仏事編-	実写 30分 児童	立つ・座るはもちろん、合掌や焼香のしかたなど仏事の基本的な作法を示す。
世界人権宣言	アニメ 21分 一般	国際連合が定めた30条からなる世界人権宣言を一つ一つ紹介したもの。
映画 造花の判決 (狭山事件)	実写 110分 一般	狭山事件を舞台に、部落差別を問題にした映画。
映画 橋のない川	実写 140分 一般	主人公の成長を通し、全国水平社結成に至るまでの人々の戦いを描く。

センター所有の16ミリフィルム・ビデオテープはその他にも有ります。詳しくはセンターまで。

姿のご婦人も見られ、六百七十の客席も満席に近い状態であった。午後一時、開会。

主催者を代表して、長岡徹宗統監老師の『人生とは、奇しき縁につながる不思議な出会いと別れ』であり、本年度宗門の布教方針『ほとけに出会う』とは、具体的には、『各人が、ほとけにたしかえること』と言及され、『この会が、明日への生活の希望につなげていただければ、心の糧となれば幸甚です』と、開会挨拶。引続き、ひろ・さちや先生の講演。

演題は、「おまかせして生きる」(要旨) イスラム教徒が、明日の約束をする時は、必ず「インシャーアッラー」という。

私達には、明日や未来には何が起こるか分からない。約束したって、出来るか出来ないかわからない。だから「インシャーアッラー」(もしも神様がお許しになるなら、神様のおぼしめしがあったなら)である。

イスラム教徒の聖典、コーランに『お前たちは、私は明日何々のことをする、と言ってはならない』「ただし、明日の約束をする時は、必ず「インシャーアッラー」と言え」と書かれており、彼らは、聖典に従って宗教的に生活している。私は、この生き方を「神ゲタ主義」と名付けた。

日本では、競争、努力のかけ声のもと

に、特に「約束の時間を守らないことは、絶対に悪いことである」という考え方が定着してしまっているが、果たして、この考え方が絶対正しいのであろうか。

● イソップ物語「ウサギとカメ」に対する、現代の日本人と外国人とでは、生き方としての、善悪の考え方が、少し違うようだ。

● 仏教徒である私達にも、未来のことはわからないのだから、仏様におまかせして生きる「仏ゲタ主義」が良いのではないか。

● イエス・キリストも「明日のことを思いわずらうな、今日一日の苦勞は、今日一日にて足れり」といい、お釈迦様も「過去を追うな、未来を求めぬな、過去はすでに過ぎ去り、未来はまだやってこない。今なすべきことを、しっかりとやりなさい」といつている。― 共通の宗教観だ―

● 日本では、未来での幸せばかり追い求めて、現在の幸せを犠牲にして生きている。

● 禅の教えは「いま、ここで、私が、何をすべきか」をしつかりつかんで生きてゆくことである。

● 私達は多少なりハンディキャップを持って生きている。仏様から、大事な仕事として、あづからせていただいているこの身体を嫌って、他人の様であら

ばいい等と思うのは、禅の教えに反する。

● いま、ここで、私が、何を、すべきか、の不安はあるけれども、そのことはすつかり仏様におまかせして、今を充実して幸せに生きてゆくことが、禅の、道元禪師の教えである。

十分間の休憩後、打版一通。長岡徹宗統監の指導により「椅子坐禅」開始。壇上には、八頭郡若桜町竜徳寺住職松本尊仁宗務所長を中央にして、四名の宗侶と二名の寺族が跏坐、檀信徒男女二名が左右に椅子坐禅をして、止静。わずか十五分の時間であったが、会場内六百余名が、ゆつくりとした静寂の時を保って開静。放禅。

引続き、松本尊仁鳥取県宗務所長が「皆様が、今日体験された坐禅を中心として、『いま』を大切に生活していただきたい」と開会挨拶。午後三時四十五分、定刻に散会した。

当番県として、開会まで不安でしたが、お蔭さまで盛会裏、有効に終了できました。準備等適切な御指導をいただきました。管区教化センターの皆様と、早朝より準備に御協力くださいました県西部青年宗侶各位に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。有難うございました。また、紙面都合で、ひろ先生の講演要旨を省略いたしました。お許しください。

教化センター

平成六年度事業計画

- 一、全国センター職員中央協議会 (四月四～六日)
- 二、中国管区曹洞宗婦人会研修会役員会 (四月二十一日)
- 三、企画委員会 (四月二十二日)
- 四、教化センター報第十号発刊 (四月)
- 五、管区布教師連絡協議会 (五月十日)
- 六、中国管区人権学習会 (五月三十～三十一日)
- 七、青少年教化指導者研修会 (六月二十三～二十四日)
- 八、第十回親子ゼンインサマーセミナー (七月二十五～二十七日)
- 九、禅をきく会・広島 (七月十九日)
- 十、管区集会 (九月六～七日)
- 十一、中国管区布教師協議会・講習会 (九月十二～十三日)
- 十二、中国管区曹洞宗婦人会研修会 (十月七～八日)
- 十三、全国教化センター職員中央協議会 (十月二十七～二十八日)
- 十四、センター運営・企画委員会 (十一月)
- 十五、禅をきく会・島根第二 (十二月)
- 十六、布教師特設検定(中国・四国・九州) (二月下旬)
- 十七、教化センター報十一号編集会議 (二月一日)
- 十八、中国管区布教委員長会議 (二月)
- 十九、島根県布教講習会 (二月)

セ ン タ ー 役 職 員				
統監	宮田玄洞	阿弥陀寺内	〒725-02 豊田郡東野町2276	☎08466 5-2061
主監	用元一雄	長光寺	〒722-24 豊田郡瀬戸田町垂水830	☎08452 7-2467
賛事	村上邦雄	摩訶衍寺内	〒722-01 尾道市原田町梶山田4338	☎0848 38-0656 ☎(連)0849 53-9153
賛事	山本昌男	全柳寺内	〒759-33 山口県須佐町弥富下	☎08387-8-2056 (連)0848-64-0982



お知らせ

センターだよりも、今号で十号となりました。各寺院に少しでも役立っていただけのように、紙面の内容の充実に心がけています。これからも、身近な情報交換誌でありますよう心がけますので、皆様方の御指導御鞭撻の程よろしくお願います。